

## ラフティング・ダウンリバー6人制レース大会競技規則 ver.1

### 1. 競技種目

ダウンリバー6人制レース（タイムトライアル方式）

吉野川・小歩危コース 堂床～白川口 約5km

※大会主催者の判断で、増水・天候などによりコースを変更、中止する場合がある。

### 2. 参加登録制度

- ・参加者1人当たり5,000円を大会主催者に収めること。  
ただし、6人を超える場合、補欠者は1人当たり1,000円とする。  
また、欠員の場合、いかなる理由でも返金には応じない。  
参加登録費には傷害保険加入料と軽昼食代を含む。  
天候などの理由で当日、レース開始前に中止になった場合は、軽昼食代を差し引いた代金を返金とする。
- ・1チーム当たり6人までとする。ただし、5人での参加も認めるが、実際の参加人数が4人以下の場合は失格とする。  
※ジャパンカップの成績対象チームは、R6男子、R6女子、R6オープンの3部門となる。（詳細はジャパンカップ規約参照）
- ・1チームのメンバーが6人をこえる場合、2人までの補欠メンバー登録を認める。
- ・参加登録後のメンバー（補欠メンバーも含む）の追加・変更は、いかなる理由があっても認めない。また、選手登録にない者が出場した場合、そのチームは失格となる。
- ・参加登録している補欠メンバーと、大会期間中にメンバー変更ができる。ただし、競技の開始から終了までの間、メンバーの変更はできない。上記に反した場合は、そのチームは失格とする。
- ・各チームには必ず1人チームキャプテンがいること。チームキャプテンは、メンバーの安全確保に責任を持ち、大会期間中のキャプテンミーティングなどの大会主催者が指定する説明会には必ず出席し、スムーズな大会運営に協力すること。
- ・参加者は、競技期間中の行動を自己責任で行い、事故が生じた場合、大会主催者およびその代理人やチームメンバー、チームキャプテンにその責任を問わないこと。

### 3. ポイント規定

- ・順位に応じたポイントを付ける。
- ・ジャパンカップカテゴリー登録チームにおいては、大会リザルトと別に、ジャパンカップ規約に基づいたカテゴリー毎の順位を決める。

順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11, 12, . . . 29, 30	31 以下
ポイント	40	35	31	28	27	26	25	24	23	22	21, 20, . . . 3, 2	すべて1

#### 4. 装備規定

出場チームは、大会主催者、またはその代理人による各装備の検艇、装備確認を受けることを義務づける。装備規定を満たさないチームには大会出場停止を勧告することがきる。また、止むえない事情による競技期間中のボート変更は、改めて検艇を受けることで認められる。

##### 【ボート】

- ・ホワイトウォーター仕様の自動排水機能（セルフペイラー）を備えたラフティング用インフレーターボートに限る。
- ・全長 **380cm** 以上、幅 **180cm** 以上で、2 ないし 3 スウォートを搭載し、5 気室以上を有するボートを使用すること。
- ・規定に則ったボートが必要な場合、大会主催者管理のレンタルボート（有料）での出場も可能である。ただし、レンタル希望多数の場合、十分な数のレンタルボートを用意できない場合がある。その際は、予約順のレンタルとする。
- ・すべてのボートはアウトサイドチューブにセーフティラインを装備しなければならない。
- ・フットストラップの装着やロープによる予備パドルの固定、スローロープの固定は大会主催者、またはその代理人が安全性を点検し、認められれば可能とする。
- ・検艇後のボートの改造、変更は一切禁止する。該当したチームはただちに失格とする。

##### 【パドル】

- ・T グリップのあるラフティング・カヌー用に設計されたシングルブレードパドルを使用すること。
- ・乗船している人数より最大 1 本までの予備パドルの携行を認める。

##### 【PFD】

ホワイトウォーターでのラフティング、カヌー用に設計された浮力が **7kg** 以上ある **PFD**（パーソナルフローティングデバイス）を着用しなければならない。劣化が激しく浮力に問題があると大会主催者、またはその代理人が判断した **PFD** の使用は認められない。また、クイックリリース機能が装備された **PFD** の使用が望ましい。

##### 【ヘルメット】

ホワイトウォーターでのラフティング・カヌー用に設計されたヘルメットを着用しなければならない。

### 【シューズ】

足を保護するシューズ、もしくはリバー用ブーツ、リバーサンダルなどを着用しなければならない。

### 【スローバック】

チーム全体で最低1個以上のスローロープを携行すること。チーム全員が所持し、ボートにも余分のスローバックを積載することが望ましい。

### 【その他の装備】

- ・リバーナイフ：チーム全体で最低1本以上を所持していること。チーム全員が所持することが望ましい。
- ・フリップライン：チーム全体で最低1本以上を所持していること。チーム全員が所持することが望ましい。
- ・カラビナ：チーム全体で最低2個以上のカラビナを所持していること。
- ・ホイッスル：チーム全体で最低1個以上のホイッスルを所持していること。チーム全員が所持することが望ましい。
- ・ファーストエイドキット：各ボートに救急用医薬品を所持していることが望ましい。

## 5. 競技規定

### 【参加資格】

- ・満18歳以上の心身ともに健全な男女で、本大会の開催趣旨に賛同できる者であること。
- ・参加者は大会主催者が提示する誓約書に署名できる者でなければならない。
- ・フリップ、落水の可能性が高い河川での競技となるので、十分な自己責任でレースをできる技術（セルフレスキュー）を有していること。
- ・メンバー全員が瀬の中において、フリップリカバリー技術ができることが望ましい。
- ・上記の個人資格を満たすと共に、最低2人はラフティング大会経験者、または商業ラフティングのリバーガイドを含むこと。  
ただし、吉野川で商業ラフティングの資格と能力を有するリバーガイドを含む場合は、1人からの参加を認めることとする。
- ・大会主催者、またはその代理人が参加者に上記の資格がないと判断した場合、その責任において該当チームに出場停止を命じることができる。
- ・増水や天候などにより、開催当日、コースの難易度が著しく上がった場合、安全を考慮し、大会主催者の判断で、上記の資格を有した参加チームであっても、その技量に応じ、出場の停止を命じることができる。

### 【出艇方法および注意事項、競技ペナルティー】

- ・1チーム毎、または複数艇グループ毎に、間隔をおいて出艇する。

- ・スタートは川岸、またはボートなどにラフトボートのスターン（後部）を固定させて、大会主催者、またはその代理人のスタートの合図で出艇する。  
または、川にスタートラインを設けて大会主催者、またはその代理人の合図に合わせてスタートする。
- ・フライングは 50 秒のペナルティーとする。2 回のフライングは、失格とする。
- ・ゴールはゴールラインをボートの一部がこえた時とする。
- ・競技中に追いつかれたチームは、追走されているチームに合図（かけ声などによる指示）をかけられた場合、ただちにラインを譲らなければならない。
- ・ラフトボート上に競技者全員が乗っていない状態で、ゴールラインをこえた場合、50 秒のペナルティーが加算される。
- ・ラフトがフリップした状態でゴールラインをこえた場合は、50 秒のペナルティーが加算される。
- ・他チームの妨害やスポーツマンシップに反する行為をしたと大会主催者が判断した場合、1 行為について 10 秒のペナルティーが加算される。
- ・指定する激流ポイントにおいては、安全面を優先すること。強引な追い抜きは妨害行為とみなし 10 秒のペナルティーが加算される。
- ・競技コース内でフリップ、落水により危険な状況に陥った際、大会主催者、またはその代理人の判断により、救助を行う場合がある。ただし、レスキューを受けたことによるペナルティーは一切生じない。
- ・フリップ・落水などのアクシデントが生じた場合、競技続行可能であればそれを認める。  
ただし、大会主催者、またはその代理人の判断で競技続行不可能と判断した場合、その時点で失格とすることができる。

#### 【安全要員】

- ・安全な大会運営への協力として、義務ではないが、安全要員の供出が望ましい。参加登録者の有無は問わない。

## 6. 競技判定に関する抗議規定

- ・競技の判定について抗議がある場合は、5,000 円の預託金を大会主催者に添えて、抗議することができる。抗議が認められた場合、この預託金は返金されるが、認められない場合は大会主催者が没収する。
- ・抗議はレース結果発表から 15 分以内にチームキャプテンにおいて、大会主催者に申し立てなければならない。いかなる場合においても、大会主催者のスタッフなどに直接抗議することは認められない。

## **7. 特別減点規定**

競技期間中を通して、アンフェアな行為、他者に危険を及ぼす行為、大会およびスタッフの名誉を傷つける行為や言動、地域住民や施設に対する迷惑行為などがあった場合、大会主催者の判断により、減点処置、または大会出場停止、または退場の処置を科すことができる。

## **8. 競技期間中の写真、ビデオの規定**

大会主催者、またはその代理人が撮影する競技期間中の写真、ビデオなどを大会の目的のために使用する場合、参加者はその肖像権を放棄すること。